



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第21回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 どこか間違っていないか? ボールの交換!

今夏の甲子園での全国大会や韓国での国際大会をテレビで観戦していてびっくりしました。捕手が投球を取りそこなっても追いかけてもせずに球審に新しいボールを要求したり、時には要求もせず(しゃがんだままで)待っている光景がありました。とても違和感を感じます。

毎日のように何試合ものプロ野球が放映されています。文字通りのニューボールをショートバウンドただけで交換、さしたる確認もせず届けられるニューボール…、真似している高校球児はいないと思いますが、あまりに恵まれすぎて大切な価値観が損なわれているようです。地区大会や練習試合では、両チームが数個を出し合って試合球とします。ファウルボールや場外に飛び出たボールもみんなが協力して集めなければ試合ができません。甲子園大会では、スタンド入りしたファウルボールを捕らえた人に記念として贈呈していますので、それなりの数のボールが用意されているようですが、そのことと試合球の扱いとは別の話ではないでしょうか。

球審から投手に届けられるボールは、その時その場面で唯一無二の大切な試合球です。一球入魂…などと言えば少々古めかしい響きがありますが、ボールとの緊張感、そのボールへの思い入れ無くして”ベースボール”は成り立ちません!

道具としてもボールを大切に、何よりも一球に集中するお互いこそが球友なのです。



ルール編 ボールインプレイ時の野手の位置/練習試合で

走者一塁、投手が投手板に着いたので、牽制球に備えた一塁手はベースをはさむようにして立っています。左足はファウル地域にあり、一塁塁審から左足もフェア地域に移動するように指導されました。どうしてですか?

かつて、プロ野球では「〇〇シフト」と呼ばれる、打者によって打球の確率から極端な守備位置をとることがありました。野手の位置に関する規則は、規則4-03に「試合開始のとき、または試合中ボールインプレイとなるときは、捕手を除くすべての野手はフェア地域にいななければならない。」また、同じく(C)には「投手と捕手を除く各野手は、フェア地域ならば、どこに位置してもさしつかえない」と規定しています。さらに同じ項の【注】には「投手が打者に投球する前に、捕手以外の野手がファウル地域に位置を占めることは、本条で禁止されているが、これに違反した場合のペナルティはない。審判員がこのような事態を発見した場合には、速やかに警告してフェア地域に戻させた上、競技を続行しなければならないが、もし警告の余裕がなく、そのままプレイが行われた場合でも、この反則行為があったからといってすべての行為を無効としないで、その反則行為によって守備側が利益を得たと認められたときだけ、そのプレイを無効とする」とあります。このケースでは、一塁走者が帰塁の際に野手とぶつかる可能性もあり、大変危険です。プレイが無効となるような極端なケースは珍しいかもしれませんが、規則にのっとり正しい野球を実践してください。

